

## 一般廃棄物の適正処理の提言と減量化の現状

### 1 紙類リサイクルの拡大

#### 家庭から排出される紙類(雑紙類)の回収について

新聞・雑誌・ダンボールや紙パック以外の雑紙（空箱・紙袋・包装紙・コピー用紙・紙切れ等）を資源物として回収が出来るよう周知し、住民に徹底。

紙袋、コンテナ、バスケットのような蓋の付いた小さなものを使用。

排出の方法について、分かりやすく、くり返し広報することが重要。

（広報誌の記事として掲載するより、回覧の方が効果的ではないか。）

エコ・たかねざわ、の資源回収ステーションでの分別指導と情報の発信。

（高根沢町）

### 2 プラスチック製容器包装リサイクルの推進

#### その他のプラスチック、発泡スチロールのリサイクルルートの確立について

##### (1) その他のプラスチック

プラスチック製容器包装の分別収集については、リサイクルルートを調査し、回収及び処理体制を検討。

リサイクルルートにより、処理経費が異なるため、民間を活用した効果的なルートの確立も必要。（ペットボトルの売却のように。）

さくら市（旧喜連川町）で、シャンプー容器等、その他プラスチックを拠点回収し、リサイクルしているため参考とする。

##### (2) 発泡スチロール

発泡スチロールについては、品質が一定であれば有価で売却できる業者もあるものと思われるので、情報収集をおこなう。

高根沢町で、発泡スチロールを拠点回収しリサイクルを実施しているため参考とする。

（溶融処理による再資源化）

### 3 ごみ処理費用のコスト意識及び啓発・PRについて

「ごみ処理には多額の経費がかかっていること」や、「生ごみの水切りや紙類の分別徹底など、住民の努力によってごみを減らすところにより、経費が節減することができること」を広報・チラシによりPRする。

#### (1) 環境教育の充実・強化

保育園、小中学校、各地区への出前講座の実施。

(ごみを視点にした物を長く使用することや、きちんと分別すること等を、幼児教育、学校教育、各地域を通して年齢層に応じた環境学習に努める。)

#### (2) 学習機会の提供

町内会等の協力のもと、「ごみの資源の分け方・出し方」や分別説明用ビデオや冊子などを作製し、住民に対して更なる分別方法のPRに努めることにより、ごみの減量・リサイクルへの意識を高める。

エコ・たかねざわ、を活用した情報の発信。(高根沢町)

#### (3) ごみ処理費用のコスト意識

ごみ処理費用のコスト意識については、年間の処理費や一日当たりの処理費用を公表する。(一人当たり等に換算すると、金額が小さくなるため処理意識が低下するのではないかと。金額が大きい年間処理費等の方が意識向上になるものと思われる。)

また、収集運搬と処分費用(広域負担金含む)についても、参考として公表しても良いと思う。

周知方法として町の広報誌に「ごみ処理とリサイクルルートに関して」の特集を予定。(塩谷町)

毎月、住民の努力の結果をごみ排出量の変化、ごみ処理経費の節約見込み額として広報等で知らせ、住民のごみ減量意識の啓発に努める。

また、ごみ減量・リサイクルについての意識向上を図り、行動を促すため、「3R」をテーマとして、各種イベントで発生するごみの抑制を図る。

個人のコスト意識の向上を図ることを目的として、分別を行なうことにより、指定袋(ごみ処理券)の枚数が減ることもPRしたほうが良い。

#### (4) 各市町において、ごみ減量化の組織を活用し推進する。